

研究 主題	児童が主体的に英語を学び、学びをコミュニケーション活動に生かそうとする授業を目指して ー外国語科における学習者用タブレットによる学習記録の蓄積と活用を通してー
----------	--

第5学年外国語科学習指導案

指導月日 令和4年10月24日
 所属校名 栗原市立宮野小学校
 氏名 高橋 有紗

1 単元名「Where is the post office?」（東京書籍 NEW HORIZON Elementary English Course 5）

2 単元の目標

自分が理想とする町について伝え合うために、自分の行きたい場所の位置を尋ねたり、相手が行きたい場所への道案内をしたりすることができる。 「話すこと[やり取り]」

3 単元観

本単元は、小学校学習指導要領（平成29年告示）外国語活動・外国語編「第2章第2節英語」「1目標（3）話すこと [やり取り]」のうち、「ウ 自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うことができるようにする」に基づいて設定したものである。

この単元は、道案内、位置、日常生活、建物などの語句や、Where is~?/Go straight for~block(s)/ Turn left./It's by the~/You can see it on your left.などの表現を用いて、自分の知りたい場所や位置を尋ねたり、道案内をしたりする内容になっている。単元の終末には、児童が町にあるとよいと思う場所を加えた「オリジナルタウン」を作り、建物の場所を尋ねたり、道案内をしたりする活動が設定されている。道案内を成立させるためには、相手に分かるように尋ねたり、相手が理解できるように説明したりする必要がある。道案内の活動を通して、児童は分からないことを相手に聞き返したり、相手の表情や様子を見ながらコミュニケーションを図ろうとしたりすることが予想される。また、道案内をして相手が理解することで、児童は英語が伝わったかどうかを判断することができるため、どの児童も「自分の英語が伝わった」という達成感を味わうことができると考えられる。そのため、本単元は既習の英語表現や本単元で学習する英語表現を活用し、自分の伝えたことが相手に正しく伝わるかを意識しながらコミュニケーションを図ろうとする意欲を高めることができる単元となっている。

4 児童の実態 [第5学年1組10名]

1 外国語の授業は楽しいですか。			
楽しい 7人（前回8人）	どちらかという楽しい 3人（前回2人）	あまり楽しくない 0人（前回0人）	楽しくない 0人（前回0人）
2 学習を通してどんな英語が話せるようになるか理解して取り組んでいますか。			
理解している 5人（前回2人）	どちらかという理解している 5人（前回5人）	あまり理解していない 0人（前回2人）	理解していない 0人（前回1人）
3 前に学習した英語を、学習に生かそうとしていますか。			
している 4人	どちらかというとしている 4人	あまりしていない 2人	していない 0人
4 英語を使ってやり取りをすることは楽しいですか。			
楽しい 5人	どちらかという楽しい 5人	あまり楽しくない 0人	楽しくない 0人

5 授業の中で「できた」「分かった」という達成感を感じますか。				
感じる 8人（前回5人）	どちらかというと感じる 2人（前回5人）	あまり感じない 0人（前回0人）	感じない 0人（前回0人）	
6 授業の終わりに、学習した英語を話せるようになってきていると感じますか。				
感じる 6人（前回3人）	どちらかというと感じる 3人（前回2人）	あまり感じない 1人（前回2人）	感じない 0人（前回0人）	分からない 0人（前回3人）

上の表は、令和4年8月24日（水）に児童に行ったアンケートの結果である。前回（令和4年4月実施）の結果と比較して、児童の意識の向上が見られた点が2点ある。1つ目は、「学習を通してどんな英語が話せるようになるか理解して取り組んでいますか」という質問に対して「理解している」と回答した児童が増えた点である。この理由については、児童が単元や本時のゴールを意識し、目標を持って学習に取り組むことができるように、教師が模造紙やタブレット端末で単元の流れや必要な言語材料を示したことが有効だったからであると考えられる。2つ目は、授業の中で「できた」という達成感を感じたり、「英語が話せるようになった」という実感を持てたりする児童が増えた点である。この理由については、授業の終わりに本時の学習のまとめとして、話せるようになった英語をタブレット端末に録音させたことと、児童の英語を話すことへの意欲を高めたり英語を使ってやり取りをする必要感を持たせたりする場の設定を工夫して、コミュニケーション活動を行わせたからであると考えた。課題としては、「前時までに学習した英語を生かしていない」と感じている児童が2名いることと、「授業の終わりに学習した英語が話せるようになってきている」とあまり感じていない児童が1名いることである。この児童にも達成感を味わわせるため、児童が既習事項を生かせたと実感できるコミュニケーション活動を設定したり、タブレット端末による学習記録の活用させ方を改善したりしていきたい。

本単元に関わることとして、児童は4年生の外国語活動で「お気に入りの場所をしょうかいしよう」という学習を行っている。この単元では、Go straight./Turn left(right)./This is~/I like~/などの表現を使い、自分が気に入っている校内の場所を案内し合う活動を行った。そのため、児童は道案内の基本的な英語表現を、確認する程度で話せるようになると考えられる。また、I like~/I want~/は、既習表現としてこれまでの学習でも活用させてきていることから、話せる児童が多い。

児童へのアンケートの中で、本単元に関わることとして「自分の町にあったらよいと思うものは何ですか」という質問をしたところ、遊園地や商業施設という回答が多かった。また、自分の町を思い浮かべながら積極的に回答する姿が見られた。この様子から、本学級の児童にとって「自分の町」について考えさせる活動は「考えたい」「伝えたい」という意欲を高めることにつながると考えられる。

5 指導観

指導に当たっては、「夢の Miyano Town」を考えてお勧めしたい場所を伝えたり、相手が行きたい場所を案内したりするという単元のゴールに向かって、道案内に必要な言語材料を確認し、「夢の Miyano Town」の案内に関わる英語の中から児童が活用できるものを増やしていくことで、相手に正しく伝えるために分かりやすく話したり、知りたいことを必要に応じて聞き返したりしながらコミュニケーションを図ろうとする態度を育てたい。「夢の Miyano Town」とは、児童が生活している宮野の町の地図に、「こんな建物があつたらいいな」という児童の思いを表現させた町のことである。地図については、実際の地図を活用させると説明が複雑になり、児童が混乱することが予想されるため、教師が簡略化したものを用意することとする。児童の実態から、「夢の Miyano Town」について楽しみながら考えることが予想される。しかし、本単元の目標に迫るためには、話すことでは「自分の考えた町を友達に紹介したい」という思いを持たせたり、聞くことでは「自分が行ってみたい所の位置を教えてもらいたい」という思いを持たせたりすることが必要である。このような、伝え合う目的を児童に持たせるために、「夢の Miyano Town」の中で、自分が友達にお勧めしたい場所を3つ程度考えさせる活動を行う。お勧めしたい場所については地図上に明記させず、「おすすめの場所リスト」というワークシートを用意し、「本屋」「おもしろい本がたくさんあります」などと言葉で書かせる。ワークシートに自分

の思いを書かせることで、話す児童に「自分のお勧めの場所を教えたい」「なぜ勧めたいのか伝えたい」という思いを持たせることにつなげていく。また、「おすすめの場所リスト」を全体で共有することで、聞き手の児童に「行ってみたい」「知りたい」という目的意識を持って友達に場所を尋ねることができるようにさせたい。

単元の導入では、教師が自分の考えた「夢の Miyano Town」をALTに紹介する活動を行うことで、道案内のために必要な言語材料を児童に気付かせるようにするとともに、児童に道案内に関わる英語を学習する必要性を感じさせたり、自分も話せるようになりたいという意欲を持たせたりする。また、児童が単元を通してゴールの姿を意識できるように、単元のゴールを模造紙やタブレット端末で毎時間示し、授業の始めに確認する時間を設ける。

児童が活用できる英語を増やすために、タブレット端末による学習記録の有効活用を図っていく。授業の終わりに、本時の学習のまとめとして、話せるようになった英語を録音する時間を確保し、次時の授業の始めに学習記録を振り返る時間を設定する。

また、児童に達成感を味わわせるために、コミュニケーション活動のときには、「自分なりに英語が話せた」という思いを持たせたいと考える。そのために、児童が自分の話せる英語を使い、自分の力でコミュニケーション活動に取り組む「チャレンジタイム」を設定する。児童が話せる英語を組み合わせながら、相手に伝わるように話すことを大切に指導に当たっていく。

6 研究主題との関連

研究主題「児童が主体的に英語を学び、学びをコミュニケーション活動に生かそうとする授業を目指して」について、本単元における「児童が主体的に英語を学ぶ姿」を、児童が『夢の Miyano Town』を考えてお勧めしたい場所を案内する」という単元のゴールの活動を意識し、道案内に使える英語の中から自分が話せるものを増やそうとしたり、自分の学習を振り返り、目標を持って学習活動に取り組もうとしたりする姿とした。

また、「学びをコミュニケーション活動に生かそうとする姿」は、児童が英語でやり取りする際に、前時まで学習した英語を活用しようとする姿であり、また自分の考えをより正しく伝えるために学習記録を活用したりしようとする姿である。

以上の児童の姿を目指し、本単元では以下の手立てを講じていく。

【手立て1】児童が単元のゴールを意識し、自分の目標を持って学習に取り組むための指導の工夫

- ・ タブレット端末を活用して、単元の言語材料をカードに示し、児童に配布する。配布したカードを使って、授業の始めに学習課題を児童と確認したり、児童にどんな英語が話せるようになるのかという見通しを持たせたりする。
- ・ 授業の終わりに、話せるようになった英語を児童に音声で記録させる。毎時間記録を蓄積していくことで、話せる言語材料が増えていることを実感させたり、達成感を味わわせたりする。また、児童に自分の学びの状況を実感させることで、自分に合った次時のめあてを持たせるようにする。
- ・ 単元の中で3回の「チャレンジタイム」を設ける。「チャレンジタイム」は、児童同士でやり取りをさせる際に、既習表現を活用して自分の力でコミュニケーション活動に取り組む時間とする。「自分の力で英語を話せた」や「英語を使って相手に伝えることができた」という思いを持たせたり、次の学習ではどのように英語を話せるようになりたいかという目標を持たせたりするようにする。

【手立て2】児童が自分の学びをコミュニケーション活動に生かすための指導の工夫

- ・ 授業の始めに、児童に学習記録を振り返らせる時間を設定し、前時の自分の学びの状況を振り返らせたり、既習表現の復習をさせたりして、本時の学習に生かすことができるようにする。
- ・ 児童が話したい英語が分からないときに解決する手段の一つとして、タブレット端末の学習記録を活用できるようにする。

7 単元の指導と評価の計画

(1) 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと「やり取り」	<p>〈知識〉 Where is～?/Go straight for-block(s). Turn left./It's by the～./You can see it on your left.及びその関連語句について理解している。</p> <p>〈技能〉 自分の行きたい場所の位置を尋ねたり、相手が行きたい場所への道案内をしたりする技能を身に付けている。</p>	自分が理想とする町について伝えるために、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の行きたい場所の位置を尋ねたり相手を案内したりしている。	自分が理想とする町について伝えるために、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の知りたい場所の位置を尋ねたり相手を案内したりしようとしている。

(2) 単元の全体計画（8時間扱い 本時4／8）

時	目標（◆） 主な活動（丸数字）	評価の観点			評価方法
		知・技	思・判・表	主	
1	<p>◆本単元のゴールを知り、道案内に関する基本的な英語を知る。</p> <p>①教師の「夢の Miyano Town」の紹介を聞き、単元のゴールを知る。</p> <p>②単元で学習する言語材料を確認する。</p> <p>③道案内や建物の英語を練習する。</p> <p>④【Starting Out】No.1～No.3のおおよその内容を聞き取る。</p> <p>⑤学習のまとめと振り返りをする。 ※⑤は終末に毎時間行う。</p>				
2	<p>◆道案内に関する基本的な英語を聞き、おおよその内容を理解することができる。</p> <p>①A L Tの道案内の英語を聞き、体を動かす。</p> <p>②教師の「夢の Miyano Town」の案内を聞く。</p> <p>③前時の学習記録を振り返る。 ※①～③は学習の前半に毎時間行う。</p> <p>④【Let's Try1, 2】ワードゲームをする。</p> <p>⑤【Let's Watch and Think】おおよその内容を聞き取る。</p> <p>⑥【Sound and Letters】に取り組む。</p>				
3	<p>◆位置を表す英語で、物の位置についてやり取りすることができる。</p> <p>①【Let's Listen1】探し物がどこにあるかを聞き取る。</p> <p>②【Let's Try3】探し物がどこにあるか尋ね合う。</p> <p>③位置を表す英語を道案内に生かすことができるか考えて練習する。</p> <p>④【Sound and Letters】に取り組む。</p>	○			行動観察 学習記録
4 本 時	<p>◆自分が知りたいところの位置を尋ねたり、相手を知りたい場所への行き方を案内したりすることができる。</p> <p>①【Let's Listen2】登場人物の道案内を聞く。</p> <p>②【Let's Try4】地図を使って道案内をし合う。 チャレンジタイム①</p>	○			行動観察 学習記録
5	<p>◆「夢の Miyano Town」を考える。</p> <p>①【Let's Try4】地図を使って道案内をし合う。</p> <p>②「夢の Miyano Town」を作成する。</p> <p>③【Sound and Letters】に取り組む。</p>				
6	<p>◆「夢の Miyano Town」を基に、行きたい場所や案内したい場所について、情報や考えなどを伝え合うことができる。</p> <p>①「夢の Miyano Town」の中で友達に勧めたいところを紹介する。</p> <p>②「夢の Miyano Town」を案内し合う。 チャレンジタイム②</p>		◎	◎	行動観察 学習記録
7	<p>◆「夢の Miyano Town」を基に、行きたい場所や案内したい場所について、情報や考えなどを伝え合うことができる。</p> <p>①「夢の Miyano Town」を案内し合う。 チャレンジタイム③</p> <p>②【Do you know?】ピクトグラムの意味を予想する。</p>		◎	◎	行動観察 学習記録
8	<p>◆道案内についての英語を聞き取ったり、適切に選んだりすることができる。</p> <p>①【ことば探検】アルファベットの成り立ちを知る。</p> <p>②【日本のすてき】日本で活躍する外国の人々について知る。</p> <p>③単元テストを行う。</p>	◎			記述 単元テスト

8 本時の計画

(1) 目標

自分が知りたいところの位置を尋ねたり、相手が行きたい場所への行き方を案内したりすることができる。

(2) 本時の指導に当たって

【手立て1】児童が単元のゴールを意識し、自分の目標を持って学習に取り組むための指導の工夫

- ① 授業の始めに、教師が自分の考えた「夢のMiyano Town」の中の一カ所を提示することで、児童に単元のゴールのイメージをより具体的につかませるとともに、学習への意欲を高める。
- ② 授業の終わりに、話せるようになった英語を児童に音声で記録させる。毎時間記録を蓄積していくことで、話せる言語材料が増えていることを実感させたり、達成感を味わわせたりする。また、児童に自分の学びの状況を実感させることで、自分に合った次時のめあてを持たせるようにする。
- ③ 児童同士でのコミュニケーション活動を「チャレンジタイム」と設定し、既習表現を活用して自分の力でコミュニケーション活動に取り組むというめあてを児童に提示することで、児童が自分なりの目標を持ってコミュニケーション活動に取り組めるようにする。

【手立て2】児童が自分の学びをコミュニケーション活動に生かすための指導の工夫

- ① 前時までの学習記録を確認する時間を設け、道案内についての英語を振り返らせることで、児童が自分の学びを本時での活動に生かすことができるようにする。

(3) 指導過程

段階	主な学習活動 ○主な発問・指示 ◆予想される児童の反応	◎指導上の留意点	評価
導入 6分	<p>1 挨拶をする。 ○Good morning./How are you? ◆I'm good. ◆I'm hungry.</p> <p>2 本時の課題を確認する。 ○「夢のMiyano Town」を案内するというゴールに向かって、これまで学習した英語を使って道案内をしましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 自分が知りたい建物の場所を尋ねたり、聞かれた場所を案内したりしよう。 </div>	<p>◎ALTとの挨拶の後に、Go straight./ Turn right(left).の英語を、児童が体を動かしながら確認する時間を設ける。</p> <p>◎教師が、自分の考えた「夢のMiyano Town」の中の一カ所を紹介し、案内する。単元のゴールの姿を提示することで、本時の活動の必要性を児童に感じさせるとともに、学習への意欲を高める。手立て1①</p>	
展開 27分	<p>3 前時の学習を振り返る。 ○タブレットで、これまでの学習記録をそれぞれ振り返りましょう。</p> <p>○みんなでこれまで学習した英語の確認をしましょう。</p> <p>4 Let's Listen②に取り組む。 ○道案内を聞いて、地図のどの建物に到着するか考えましょう。</p> <p>5 Let's Try④に取り組む。 ○黒板に貼ってある建物カードのうち、自分の地図に示されていない建物の場所をペアの友達に尋ねましょう。聞かれた人は、相手に伝わるように案内しましょう。</p>	<p>◎タブレット端末を使い、前時までの学習記録を確認させることで、既習の英語を想起させるとともに、本時で活用しようとする意欲を高める。手立て2①</p> <p>◎学習記録を本時の学びに生かす意識を高めるために、本時で使えそうな英語を考えさせたり、録音していた場合には繰り返して言わせたりする。手立て2①</p> <p>◎言語材料は、教師が児童とやり取りをしながら引き出していくようにする。</p> <p>◎教科書p49の地図を使って活動するが、建物は地図記号やピクトグラムで表されている。しかし、地図記号を忘れていた児童がいることが予想されるため、地図記号が何を示しているかALTと一つずつ英語で確認する。</p> <p>◎ペアでそれぞれ欠けているところが違う地図を持たせてやり取りさせる。教科書の地図ではなく、碁盤の目のような簡単な地図を用意し、児童が混乱なく活動に</p>	

	<p>◆自分の地図には図書館がないから、図書館の場所を聞かないといけない。</p> <p>○友達に道案内の英語が伝わっているか確認したり、聞き返したりしながら取り組みましょう。ペアで一回練習しましょう。</p> <p>◆Where is the～？</p> <p>◆Go straight for two blocks.Turn left.Here.</p> <p>◆Thank you！ ◆Once more please.</p> <p>◆Go straight…何だっけ…。</p> <p>○友達とやり取りして、分からなかったことや困ったことはありましたか。</p> <p>◆「少しだけ」の英語が分からなかった。</p> <p>○「チャレンジタイム」です。分からない場所をすべて案内し合えるように、ペアの人に自分の英語が伝わるように話しましょう。</p> <p>◆さっきもできたから大丈夫だ。</p>	<p>取り組めるようにする。</p> <p>◎活動のルールを黒板に示しながら説明し、児童に理解させる。案内する側と案内される側のそれぞれが気を付けることを示すことで、相手を意識したコミュニケーション活動になるようにする。</p> <p>◎ペアで1回ずつやり取りさせた後に、全体で困ったことや再確認したいことを取り上げる時間を設ける。</p> <p>◎やり取りの中で、「Thank you.」や「Once more please.」などを使っている児童がいた場合には、良いコミュニケーションの例として取り上げる。いない場合には教師が手本を示す。</p> <p>◎2回目以降のやり取りは「チャレンジタイム」として、自分の力でやり取りさせる。本単元では初めての「チャレンジタイム」のため、相手に伝わることを目標に取り組ませるようにする。手立て1③</p>	<p>【知・技】 話すこと [やり取り] (行動観察)</p>
<p>終末 12分</p>	<p>6 本時のまとめをする。</p> <p>○一番よく言えたと思った道案内の英語をタブレットに記録しましょう。</p> <p>◆Go straight for two blocks.Turn left. Go straight for one block.You can see it on your left.</p> <p>7 本時の振り返りを行い、次時の見通しを持たせる。</p>	<p>◎本時で話せるようになった英語を録音させることで、話せる英語が増えたことを実感させる。手立て1②</p> <p>◎本時の課題がどのくらいできたか自己評価させる。また、教師やALTが児童の頑張りを認めて伝える。</p> <p>◎本時で話した英語が、「夢のMiyano Town」の案内でも活用できることを確認し、今後の意欲付けを図る。</p>	

(4) 本時の評価

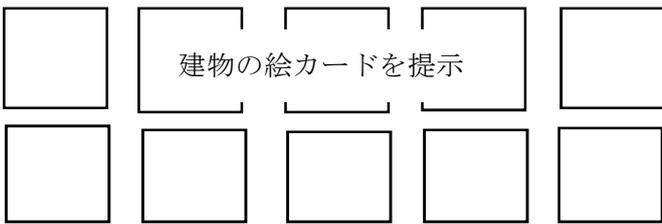
評価の観点 話すこと [やり取り] (行動観察)

	十分満足できる (A)	満足できる (B)	努力を要する児童 (C) への手立て
知・技	基本的な表現に加えて、既習表現を正確に用いて、行きたい場所への行き方を伝え合っている。	簡単な語句や基本的な表現を用いて、行きたい場所への行き方を伝え合っている。	Let's Try④で、教師やALTが助言や支援を行う。Go straight .や Turn right.などの基本的な英語表現だけでも十分に伝えることができることを押さえ、練習させる。

(5) 準備物

- ①教師：教科書、タブレット端末、プロジェクター、単元目標や言語材料の掲示物、建物の絵カード
道案内のワークシート、チャレンジタイムのめあてカード
- ②児童：教科書、筆記用具、タブレット端末

(6) 板書計画

<p>Unit5</p> <p>「夢の Miyano Town」を作っておすすめの場所を案内したり、行きたい場所を聞いたりしよう。</p> <p>まっすぐ進む Go straight.</p> <p>いくつめの角 for () blocks.</p> <p>少しだけ進む for just a little bit.</p> <p>左に曲がる Turn left.</p> <p>右に曲がる Turn right.</p> <p>()側に見えます You can see it on your()</p> <p>ありがとう もう一度言ってください</p>	<p>Our Goal 自分が知りたい建物の場所を尋ねたり、聞かれた場所を案内したりしよう。</p> <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>建物の絵カードを提示</p>  </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>道案内のルール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアで1回ずつじゅんばんに ・自分の地図の空らんをうめる <p>顔相手が分かるように 聞分からないときは聞き返す</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%; text-align: center;"> <p>チャレンジタイム カード</p> </div> </div>
---	--